ASAHI GAWASOU DAYORI

「動物の置物」などを考案した岡山県立大生が松風寮の試作の様子を見学　（4面に関連記事）

旭川荘だより

vol. 213

2016.04.01 発行

発行／社会福祉法人 旭川荘
〒703-8555 岡山市北区祇園866
TEL 086-275-0131 FAX 086-275-5640
http://www.asahigawasou.or.jp

CONTENTS

P2　平成28年度新規事業
P3　江草先生の書籍出版
P5　全社協と人事交流　出向職員寄稿
P7　レシピ　鯛めしと若竹汁
P8　アートギャラリーへ寄付

利用者と交流するミャンマーからの留学生（4面に関連記事）

新年度ご挨拶

理事長　末光　茂

平成27年度は、江草安彦先生という大きな存在を失いながらも、多くの方々に応援をいただき、創立60周年の一連の事業を終えることができました。

そして今年度は、旭川荘10カ年計画の策定、障害者の文化・芸術活動の振興など、新たな取り組みを予定しています。次の60年を方向付ける大切な年です。

同時に、旭川荘を作り上げてきた先人の思いを忘れてはなりません。

「旭川荘資料館」と「悠久の庭」が、先人の足跡を正しく知る場として、役立ってくれています。3月13日に出版された2冊の本「江草安彦伝」「江草安彦を語る」は、江草先生の生い立ちや旭川荘創設とその後の活躍振り、さらには国内外での交流を知るのに大いに役立ってくれます。旭川荘ならではのスピリッツを継承するための教材にしたいものです。

平成28年度における主な新規事業について

平成28年度における新たな取り組みの中で、主なものについて紹介します。

○いんべ通園センターでショートステイを開始

地域で生活している障害者の生活を支援するため、いんべ通園センターに、定員3人のショートステイ施設を併設します。備前市の花にちなんで「さつき」と名付けました。4月から受け入れを始めます。

新年度を前に完成したいんべ通園センターの短期入所棟

○乳児院の建て替え

現在の旭川乳児院は昭和55年に建設されましたが、一部耐震性に課題があることから建て替えを行います。これを契機に、家庭的養護の実現のために、小規模グループケアの体制に移行します。

○たかはし障害者就業・生活支援センターの開設

高梁・新見圏域の障害者の就労の促進と定着を図るため、就業支援と生活面の支援を一体的に行うたかはし障害者就業・生活支援センターを、松山ワークセンターに併設します。7月にスタートの予定です。

○真庭地域センターで保育所等訪問支援事業を開始

保育所や幼稚園等を専門職員が訪問して、障害児の集団生活への適応のための支援や保育士等に対する支援方法の指導・助言をする事業を5月から始めます。

○旭川荘10カ年計画の策定

旭川荘の中長期的な事業展開の在り方について「検討委員会」を設けて議論し、その結果を踏まえて「旭川荘10カ年計画」を年内に策定することとしています。障害福祉、高齢者福祉、児童福祉の小委員会も設けてより具体的な議論を行うことにしています。

○介護ロボット等の導入

竜ノ口寮において、職員の腰痛予防対策として介護ロボットの導入を進めます。敬老園においても、職員の負担軽減のため介護ロボットや福祉機器の積極的な導入を図って行きます。

○文化・芸術活動の振興

旭川荘の利用者の皆さんが心豊かな生活を送ることができるよう、旭川荘を挙げて文化・芸術活動の振興を図ります。特に旭川児童院においては、カルチャープラザ（仮称）を開設し、日中活動としてのアート活動に積極的に取り組みます。

○電子カルテの導入

川上診療所においては、電子カルテの導入により多職種連携を図り、質の高いサービスを提供します。旭川荘療育・医療センターにおいても、平成29年の電子カルテ導入に向けて準備を進めます。

○「ぽかぽか広場」開設

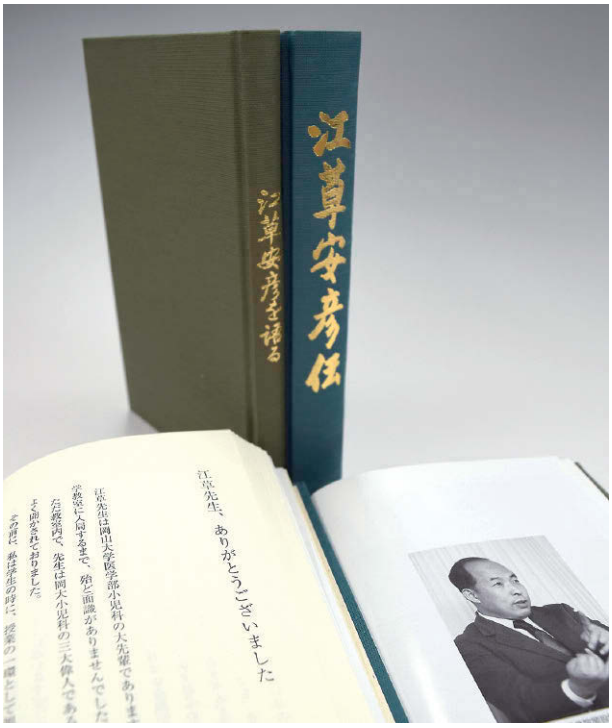
さくら児童館において、岡山市発達障害者支援センターが10月から主催する診断前乳幼児の親子交流や子育て相談支援を行う「ぽかぽか広場」の会場を提供するとともに運営に協力します。

（副理事長　仁木　壯）

江草安彦先生の書籍出版

江草安彦先生の人となりや業績を紹介した書籍「江草安彦伝」と「江草安彦を語る」が、先生の逝去から1年の命日となる3月13日に出版されました。

「江草安彦伝」は四六判、441ページ。川崎学園の川崎明徳名誉理事長や山陽新聞の越宗孝昌会長、旭川荘役職員をはじめ先生にゆかりのあった103人の寄稿文で構成されています。小学生時代のご友人やご家族、政財界、芸術界、スポーツ界など多岐にわたる方々がエピソードを披露しており、あまり知られていなかった先生の一面を読み取ることができます。



「江草安彦伝」と「江草安彦を語る」

「江草安彦を語る」も四六判で、191ページ。末光茂理事長やノートルダム清心学園の渡辺和子理事長、川崎医療福祉大学の椿原彰夫学長らの追悼講演録などを収載しています。生前の先生自身の対談も収載されており、ご夫人や家族への思いなど人間味あふれる内容が含まれています。

同日には岡山市内で出版記念会が開かれ、末光理事長は「江草先生の偉大さや優しさ、交流の広さや密度の高さを改めて感じた。これからも先生のご遺志を継いで新しい取り組みをしていきたい」とあいさつ。黒住教の黒住宗晴教主や岡山県の伊原木隆太知事らも壇上に立ち、出席した約160人とともに先生を偲びました。

両書はいずれも非売品ですが、岡山県立図書館に各100冊が寄贈され県内の図書館に置かれるほか、旭川荘でも1冊1,000円で頒布し、収益は江草先生を顕彰する事業に使わせていただくこととしています(問合せ：旭川荘資料館(電話086-275-6023)。また山陽新聞サービスセンター、ノートルダム清心女子大学同窓会、川崎学園総務課でも頒布しています。

川上診療所 菅原所長が「医療功労賞」全国表彰

川上診療所の菅原英次所長が3月14日、「医療功労賞」の全国表彰を受けました。

医療功労賞は厳しい環境下で医療活動に従事し、地域住民を支えてきた医療関係者に贈られる賞で、読売新聞社が主催し厚生労働省などが後援。菅原所長は1月の都道府県表彰（旭川荘だより第212号参照）を受けていましたが、このたび全国受賞者にも選ばれました。

表彰式は同日、東京の帝国ホテルで行われ、国内部門9人、海外部門3人の合計12人が同賞と厚生労働大臣表彰を受けました。その後、皇居で天皇・皇后両陛下に拝謁し、「それぞれの地域の支えとなり、幸せをもたらしたことを深く感謝しています」とのお言葉をいただきました。

菅原所長は「受賞が発表された3月13日は江草安彦先生の命日であり、帝国ホテルは先生の定宿。私には『意味のある偶然』でした。数少ない全国受賞者に選んでいただき、改めてスタッフや地域の皆さんに感謝しています」と話しました。

全国表彰式で賞状を受け取る菅原所長(右)

ミャンマー人留学生 重症児者の看護を学ぶ

ミャンマーからの留学生2人が2月29日から3月10日まで、旭川荘療育・医療センターで研修を受けました。

研修を受けたのは、Mi Mi Thet Mon Win（ミミ）さんとSu Su Maw（スス）さん。2人は岡山大学とヤンゴン看護大学との協定に基づく留学生として、4月から岡大の博士後期課程に入学するために来日。岡大からの要請で今回の研修が実現しました。

ミャンマーには福祉施設がまだ十分に整備されていません。療育・医療センターでは、医療面だけでなく生活面も支える看護のあり方などを学習。乳児院や旭川学園、愛育寮、吉備ワークホーム、敬老園なども見学し、障害程度や年齢に応じた施設分類やケアの方法について学びました。

また旭川荘からも、ススさんにはミャンマーの文化について、ミミさんには看護の現状についての講演を依頼。数十人が聴講しました。

説明を受けるミミさん（左）とススさん（中）

最終日に末光茂理事長から修了証を手渡された2人は「貴重な経験ができた。ミャンマーの看護教育に活かしたい」と語りました。

デザイン提案の県立大生　松風寮訪れ交流 利用者が動物の置物、コースター試作

福祉現場での活用を目指し、木と毛糸で作る「動物の置物」などを考案した岡山県立大学デザイン学部の学生らが、卒業を前にした3月14日、試作が進む松風寮を訪れ利用者や職員から改善点や要望を聞くなど交流しました。

考案したのは、木の家具や玩具のデザインを研究する南川茂樹准教授のゼミに所属する5人。旭川荘と交流のあった南川准教授のアドバイスで、平成26年秋、当時3年生だった5人が、旭川荘での製品化を目標に「心身に障害のある人たちが楽しみながら無理なく制作できるデザイン」について研究。荘内の製品制作現場も見学した上で27年2月、「動物の置物」と「コースター」の案を「間（あいだ）プロジェクト」（※注参照）と名付けた企画にまとめ、旭川荘に提案しました。

これらの提案は荘内の製品販売促進プロジェクトチーム（製品PT）で協議。製品化の可能性を検討しましたが、就労系の施設では作り手の確保やコストなどの課題もあり難航。幅広い活用方法を探るため、生活介護施設「松風寮」と児童通園施設「みどり学園」で試作に取り組んでいます。

14日は学生4人と南川准教授が、松風寮利用者の渡辺美奈子さんが「ゾウの置物」を作る様子を見学。担当の職員が、渡辺さんがデザインを気に入り楽しみながら制作していることや、手を動かす作業が不自由な右手のリハビリにも役立つことなどを説明しました。また、みどり学園からも「手先の操作性や遊び方など、子どもたちの潜在能力を知るきっかけになった」との感想が寄せられました。

南川准教授は「学生たちのデザインしたものが旭川荘の皆さんの役に立ち、機能していることが分かり、プロジェクトとしては成功だと思う。交流をゼミの後輩たちにも引き継いでいきたい」と総括。4人も「一つの製品を作ることの難しさ、取り組んでいる様子について時間をかけて学ぶことができた」「いろんな人に試してもらい、意見をもらえてよかった」などと笑顔で振り返りました。

「間プロジェクト」は今後も企画広報室が窓口となり、松風寮やみどり学園、製品PTなどの協力を得ながら継続する予定です。南川先生、学生の皆さん、ありがとうございました。

注：間プロジェクト…県立大学と旭川荘の「間」に生まれる新たな価値の創造を目指す取り組み。「動物の置物」「コースター」のほかに製品のロゴマークも提案。

「動物の置物」はブタ、ウマなど10種類。六角形の板に刺し子の要領で模様を作る「コースター」は複数並べると鍋敷きにもなる

全社協との人事交流　出向職員が寄稿

昨年度、全国社会福祉協議会（全社協）と旭川荘の間で21回目の人事交流が行われました。
それぞれの職場へ出向した2人の職員に寄稿してもらいました。

全国社会福祉協議会　佐藤 匠

瞬く間に過ぎ去ってしまった1年間にわたる出向期間。私自身、本格的に福祉と向き合ったこの1年間は、見ること・聞くこと・知ることすべてがとても新鮮であり、まさに学びの毎日であったと感じています。

私は、障害者支援施設いづみ寮にて生活支援員として、主に入所されている利用者の皆さんの日常生活のサポートをさせていただきました。仕事をはじめた4月当初は、数多くの「なぜ?」という思いに翻弄され、悩むこともありました。しかし1日1日利用者の皆さんと向き合っていく中で、次第にわかり、考えが変わっていったことは今でもはっきりと覚えています。今まで相手を理解する・相手に伝えるということをいかに限られた範囲でしか考えていなかったか、どこか頭の片隅に「あたりまえ」と自分では気づかないような思い込みがあったのではないかと自分自身を顧みる1年間でもありました。

4月以降は障害、高齢、児童など様々な分野に渡って福祉に携わることになると思います。しかしフィールドが変われど、こちらで学ばせていただいた、いかに相手に向き合い、理解し、伝えるかという姿勢は今後の仕事の上でも当然のごとく求められていきます。

最後になりますが、この1年間、福祉に携わるなかで命の尊さや人間の尊厳、福祉の力、笑顔の力、そして利用者を懸命に支える職員の姿を折に触れ学ばせていただきました。決して机に座って教科書を眺めるだけでは得られないこの経験。直にふれることで言葉に血が通っていく感覚。これらは、この先も福祉に携わる自身の原点になると胸に刻み、4月からの新たな仕事に繋いでいく思いです。1年間大変お世話になりました。ありがとうございました。

利用者と旅行に出かけたときの佐藤さん（左下）

いづみ寮　佐々木 香織

私は、平成27年4月1日から1年間、社会福祉法人全国社会福祉協議会へ出向しました。

全社協は、すべての都道府県・市町村に設置されている非営利の民間組織である社会福祉協議会の中央組織です。全国各地の社会福祉協議会とのネットワークにより、福祉サービス利用者や社会福祉関係者との連絡・調整や活動支援、各種制度の改善への取り組みなど、わが国の社会福祉の増進に努めています。

全社協の法人振興部で電話対応する佐々木さん

私は法人振興部に配属され、全国福祉医療施設協議会の事務局や、全国社会福祉法人経営者協議会の事務局の一員として仕事をさせていただきました。

全国福祉医療施設協議会とは、無料低額診療事業を行う病院や診療所を会員とした全社協の種別協議会組織です。そして無料低額診療事業とは、生計困難者が経済的な理由によって、必要な医療を受ける機会を制限されることのないよう、無料または低額な料金で診療を行うもので、第2種社会福祉事業として社会福祉法に規定されています。

会報や資料の作成、セミナーや全国大会の企画運営、会議や委員会への参加といった運営業務に携わり、厚生労働省社会保障審議会の傍聴など、どれも生活支援員の立場では体験できない多くの貴重な経験をさせていただきました。また、内部からしか見ていなかった現場の仕事を外側から見ることで、自身を見直す機会となりました。

最後となりますが、1年間、貴重な経験をさせていただき、心より厚くお礼申しあげます。

障害者の高齢化見据え　横断的な職員研修開催

旭川荘研修センターと研修委員会は、障害者の高齢化を見据え、施設や障害種別、分野を越えて学び合う研修会を企画しています。年度末に敬老園地域交流ホールで開催された2つの研修を紹介します。

事例を通し地域連携支援学ぶ

「障害のある方の地域生活支援研修会」が2月25日に行われ、地域生活ホーム担当者ら約30人が、ホームヘルパーステーション旭川荘の岩藤魔子さんと地域活動支援センターの矢吹徹さんから、中重度の障害者が地域で生活するために必要な支援について学びました。

連携した取り組みについて紹介する岩藤さん（左奥）

研修会では在宅利用者から入所の希望を聞いた岩藤さんが、相談支援専門員の矢吹さんへつないだことや、連絡ノートを用いて事業所間で情報交換していることなどを報告。参加者からは「入所施設から地域生活へスムーズに移行するために留意すべきことは」「知的障害者の介護保険移行のタイミングは」といった質問が相次ぎました。

作業療法士を講師に移動介助など挑戦

3月10日に行われた「介護セミナー」には、利用者の生活支援に携わる職員ら約30人が参加。敬老園の村上真也さん（作業療法士）を講師に、足腰の弱った利用者を想定した移乗・移動の介助に挑戦しました。

村上さんは「介助時には相手がどのように動きたいのかを理解するためのコミュニケーションも重要」と指摘。参加者はベッド上で補助具のスライドシートを背中の下へ敷くと、少しの力で移動できることなどを体感しました。

参加者に介助方法を説明する村上さん（右）

児童院でつばさコンサート

旭川児童院の「つばさコンサート」が3月10日、旭川荘療育・医療センターの多目的ホールで行われました。「つばさコンサート」は利用者の作った詩や利用者の思いに寄り添った詩に、職員やボランティアが曲をつけて発表するもので、今回で33回目を迎えました。

最初に、全日本エレクトーン指導者協会ヤマハJETの皆さんと利用者代表「つばさバンド」の伴奏で、テーマソング「勇気をもって」を全員で歌いました。続いて、各病棟から選ばれた「やさしい時間」「ありがとう」「おいらはロックンローラー」などの入選作7曲が披露され、南愛媛病院から応募のあった2編の詩の朗読もありました。スポットライトを浴びて晴れやかな表情の入選者に、家族も笑顔で寄り添っていました。

最後に、コンサートを後援する岡山後楽園ロータリークラブの皆さんが「今回は自分たちも参加を」と、「ふるさと」を合唱。大きな声で一緒に歌う利用者もいて、会場は一体感に包まれました。

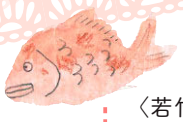
「おいらはロックンローラー」を披露するもも病棟の皆さん

旭川荘管理栄養士のいきいき健康レシピ

RECIPE 28

鯛めしと若竹汁

簡単豪華な旬の味覚



栄養量:1人分
<鯛めし>
エネルギー:322kcal
たんぱく質:12g
塩分:0.8g

栄養量:1人分
<若竹汁>
エネルギー:20kcal
たんぱく質:1g
塩分:1.5g

○材料(4人分)

〈鯛めし〉

米	2合	☆	水	2カップ
鯛	2切れ		薄口しょうゆ	大さじ2と1/2
だし昆布	5cm角		酒	大さじ1
しょうが	1かけ		みつ葉	10本

〈若竹汁〉

たけのこ(穂先)	小1本	★	薄口しょうゆ	小さじ2
わかめ	40g		酒	大さじ2
だし汁	4カップ		塩	小さじ1/2

〈鯛めしの作り方〉

① 米を洗い、ざるに30～40分あげておく。
② 鯛は熱湯にくぐらせて霜降りにし、冷水に取ってから水気を切る。しょうがは皮をむいて千切り、みつ葉はさっと茹でて2cmに切っておく。
③ 炊飯器に米としょうが、☆の調味料を入れてよく混ぜる。昆布を敷き、その上に鯛をのせて炊く。
④ 炊き上がったら、昆布と鯛を取り出す。鯛の骨を丁寧にとり、身をほぐしてから炊飯器に戻し、混ぜ合わせる。
⑤ 茶碗に盛り、みつ葉を添える。

〈若竹汁の作り方〉

① たけのこはあく抜きし、穂先を縦に4等分してから薄切りにする。
② わかめは水洗いして水気を絞り、食べやすい大きさに切る。
③ 鍋にだし汁とたけのこを入れ、中火で2～3分煮る。わかめと★を加えてひと煮立ちさせる。

入学や就職など、春はお祝い事の多い季節です。おめでたい席には欠かせない鯛を使った炊き込みご飯をご紹介。鯛には良質のたんぱく質が含まれており、免疫力を向上し、代謝を促進する働きがあります。付け合わせには旬のたけのこを使ったお吸い物を添えて。たけのこは食物繊維が豊富なので、腸内環境を整えてくれます。利用者にも好評な春らしいメニューです。

(旭川荘療育・医療センター　大橋百合子)

ワンポイント ONE POINT

鯛は熱湯にくぐらせると臭みとぬめりが取れるので、風味がアップします。お吸い物のだし汁は白だし(水4カップに対して大さじ2)を使っても。水煮たけのこや乾燥わかめを使うとさらに簡単に調理できます。

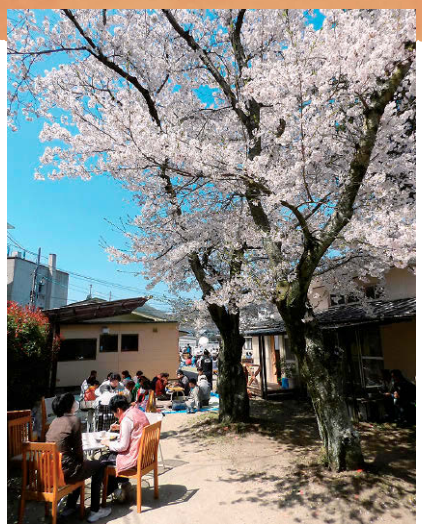
リレーコラム

さあ、新しい1年の始まりです

平成28年になり、政治や芸能では大きなニュースが立て続けに世間を賑わしています。「SMAP解散」騒動も大きなニュースでした。

SMAPのヒット曲の「夜空ノムコウ」という曲をご存知でしょうか。歌詞の中に「あの頃の未来に僕らは立っているのかな」という一節があります。この言葉、よくよく考えると非常に深いと思います。

今私が勤めている愛育寮は、昭和39年に旭川学園の重度棟として開設。昭和55年に独立した施設となり36年もの月日が経ちました。あの頃の利用者や支援者はどのような未来を夢みたのでしょうか。その未来に今私たちが立っています。当時からここで生活をされている利用者の方々も多数いらっしゃいます。そう思うと、歴史の重みとともに、思い描いた未来を今の私たちが具現できているのだろうかと考えさせられもし、もっと「がんばりましょう」と背中を押されるような気にもなります。



満開の桜は見ごたえがあります(平成27年4月撮影)

「すべてが思うほどうまくいかないみたいだ」と歌は続きます。すべてはうまくいかなくても少しずつでも夢を叶えながら、今の私たちが思い描く未来を次の世代が実現できるようにつなげていきたいものです。

さて、愛育寮では毎年4月に桜の木の下で「はじまりの会」を行います。新たな気持ちで1年がスタートします。利用者も職員も「世界に一つだけの花」を咲かせることができるように、日々歩んでいきたいと思います。

(広報委員　和田倫明)

食品卸同業会より アートギャラリーへ寄付

岡山県食品卸同業会より2月24日、旭川荘アートギャラリーへ寄付金50万円をいただきました。

旭川荘事務局で開催された贈呈式には、同会の守分孝治会長ら代表4人が出席。末光茂理事長は、お礼に旭川学園で制作したカレンダーと、わかば寮の菓子工房で作ったクッキーをプレゼントしました。出席者は、カレンダーに描かれた子どもたちの絵を見ながら懇談。続いてアートギャラリーを訪れ、展示作品を鑑賞しました。

アートギャラリーは、同会からの継続的な寄付金を改装費の一部にあてることとして整備され、平成22年11月に開館。荘内の利用者や家族、ボランティアを中心に、来館した皆さんの目を楽しませています。

末光理事長に目録を手渡す守分会長
（左から4人目）

評議員会・理事会報告

平成27年度第3回評議員会・理事会を3月18日岡山プラザホテル(岡山市中区浜)で開催しました。

当日の会議では、平成28年度事業計画、平成28年度資金収支予算、理事及び評議員の一部変更など15件の議案と1件の報告案件が審議され、いずれの案件も原案どおり承認されました。

退任される理事、評議員の方は次の方です。

理　事	退任(3月31日付)	板野　美佐子
評議員	退任(3月31日付)	捻金　徹明
評議員	退任(3月31日付)	黒田　みき子

旭川荘ごよみ
SCHEDULE CALENDAR

4月

1日 辞令交付式 ……旭川荘
5日 入学宣誓式 ……旭川荘厚生専門学院
29日 第33回旭川荘子どもまつり ……旭川荘
☆ 花見行事／入学・入園行事 ｝各施設

5月

7日 学院説明会 ……旭川荘厚生専門学院
17日 入試説明会 ……旭川荘厚生専門学院
22日 春の清掃奉仕 ……旭川荘祇園地区
27日 旭川荘評議員会・理事会……旭川荘
31日 天理教春の清掃奉仕活動 ……旭川敬老園
☆ 旅行　～各施設

平成28年度 主要人事

顧　問

◎新 任(平成28年4月1日付)

藤井　千穂	旭川荘顧問
	旭川荘療育・医療センター顧問医師
	旭川荘南愛媛病院顧問医師

施設長

◎異 動(平成28年4月1日付)

井上　英雄	旭川荘療育・医療センター顧問医師
	(兼)平田診療所長
角南　重夫	旭川荘療育・医療センター顧問医師
松本　裕子	旭川荘療育・医療センター副支援部長
坪井久美子	旭川乳児院院長(兼)さくら児童館館長
岡崎志保子	旭川児童院地域療育センター所長
	(兼)地域活動支援センター 所長
田村　　稔	吉備ワークホーム所長
小林　由典	愛育寮寮長(兼)あかしや園園長
	(兼)デイセンターあかしや所長
檜尾　　博	いづみ寮顧問
秋山　哲生	いづみ寮寮長
國近　桂子	川崎祐宣記念総合在宅支援センター所長
大月　政和	旭川荘岡山障害者就業・生活支援センター所長心得
安東　保夫	旭川荘真庭地域センター顧問
須田　篤人	旭川荘真庭地域センター所長
板野美佐子	参与
	先人顕彰施設開設準備室室長
小幡　篤志	企画広報室室長
	(兼)日中医療福祉研修センター所長
中倉　隆巨	松山ワークセンター生活支援員
三宅　典子	三世代交流センター結びの杜所長
	(兼)結びの杜ホーム所長
笠原　佳子	せとうち旭川荘所長
安達　悦子	いんべ通園センター所長
池田　章朗	くわのみどりの家所長
新谷　義和	わかくさ学園園長
原田　雅寿	津島児童学院学院長

◎退職(平成28年3月31日付)

捻金　徹明	愛育寮寮長(兼)あかしや園園長
	(兼)デイセンターあかしや所長
黒田みき子	津島児童学院学院長
中村　誠一	吉備ワークホーム所長
足立　俊典	備中診療所所長
平岡　文恵	旭川乳児院顧問(兼)さくら児童館館長

編集後記

旭川荘だより210号で紹介された「りんごhanko」を購入しました。リンゴの形の中に「みました」と刻印してもらい、回覧物への押印に使っています。以前、青森で勤務した経験があることから、リンゴの木には思い入れがあります。リンゴの木の手入れをしている職員の苦労に思いをはせながら大切に使うことにします。　（広報委員　後藤祐之）